

学校再開

学校長 金子 正人

梅雨空の下、1年生が育てている朝顔の花が咲き始め夏の到来を感じさせるこの頃です。6月1日に再開した学校は、第1期の分散登校、第2期の短時間一斉登校を経て7月からは通常登校に戻ります。この間、子どもたちは「マスク」、「手洗い」、「換気」、「ソーシャルディスタンス」などの新しい生活様式にも慣れ、元気に過ごしています。保護者の皆様には日々の検温や健康観察にご協力いただきありがとうございます。

日常が戻るにつれ心配されるのが、学習の進度や今後の行事でしょうか。休校期間中の学習の遅れを取り戻すことはもちろん大切ですが、詰め込み授業で子どもたちが学校嫌いにならないように工夫しなければなりません。各クラスを回っていると、休校期間中に作成したり集めたりした教材やデジタルコンテンツを活用して授業をしています。子ども同士がグループで話し合ったり、協同で何かを作ったりする活動には制限がありますが、できる範囲で工夫した授業を展開しています。

行事も少しずつ再開しています。6月上旬に行った避難訓練では、「おかしも」（おさない かけない しやべらない もどらない）の約束を守って速やかな避難ができました。校庭では普段より間をあけて座り、避難行動とともに新型コロナウイルス感染症の予防行動（新しい生活様式）についても話を聞きました。6月下旬には2か月遅れの「1年生を迎える会」を行いました。例年なら全校が体育館に集まって、みんなで1年生を歓迎するのですが、密が生まれてしまうため今年はそれができません。そこで、運営委員会の子どもたちと担当教員が相談してテレビ集会のアイデアが生まれました。当日は出演者が放送室前に集合し、セリフを何度も練習しドキドキしながら出番を待っていました。「テレビに映るの初めて」「テレビはみんなが見るの？」などととても緊張した様子でしたが、出番が終わり上手にできたことを褒められるととたんに緊張が緩み、ニコリ笑顔で教室に帰っていきました。体育館で全校児童の前に立つ方がもっと緊張するのではと思うのですが、どうやら「テレビに映る」という経験が特別なようです。

7月1日からはいよいよ給食が再開します。心待ちにしていた子も多いと思いますが、給食もこれまで通りにはいきません。食前の手洗いは当然ですが、配膳のしかたや食べ方にも従前と違うルールがあります。中でも「全員前を向いて、話をせずに食べる。」というルールはこれまでにない厳しいものです。班になって楽しく食べる習慣が身に付いている子どもにとっては寂しい給食となりますが、しばらくは辛抱です。

このように、学習も行事も生活も普段通りにはいかないのですが、違うからこそできることを「逆転の発想」で考えていきたいと思えます。

ご家庭には毎日の検温や健康観察、マスクの準備等引き続きご協力いただきますがどうぞよろしくお願いたします。